

IV 自然体験事業

(加瀬澤)

平成22年度自然体験事業

1 自然体験事業一覧

平成22年度は、子どもと大人を対象とした自然体験や自然環境教育事業を8回実施しました。3月19日には、菅生若宮子ども体験の森で、「春を見つけよう」自然体験を予定していましたが、3月11日の震災の影響で中止にしました。

自然体験事業の目的は、自然に親しみより深く自然を知ること、自然を好きになってもらうことだけではなく、自然を守っていく行動につなげることです。そのためには、自然を好きになるきっかけとしての実体験が必要になります。

No.	実施日	事業名	対象	参加者数		備考
				大人	小人	
1	6月25日	清流でホタルを見よう	2歳 ～中学2年生	22	15	
2	7月20日	小宮久保子ども会	小学1年生 ～5年生	5	12	
3	7月26日	港区交流事業	小学3、4年生	4	58	
4	7月29日	栗原市交流事業	中学2年生	19	71	
5	8月9日	昭島市交流事業	小学生	—	—	中止
6	11月13日 14日	あきる野市産業祭 「どんぐりで森づくり」	小学生	15	53	
7	11月27日	次世代につなぐ 森づくり見学会	大人	11	—	
8	1月29日	冬を見つけよう	小学生	3	10	
9	3月19日	春を見つけよう	小学生	—	—	中止
人数合計				79	219	

2 事業内容詳細

(1) 清流でホタルを見よう



(行程表)

時間	場所	内容
18:30	瀬音の湯	<ul style="list-style-type: none">・ 始まりの挨拶・ 森林レンジャー自己紹介・ ホタルの生態と環境について (クイズとレクチャー)
19:40	養沢川	<ul style="list-style-type: none">・ ホタルのエサとなるカワニナ・他の水生生物を紹介・ 自由にホタル探索
20:30		<ul style="list-style-type: none">・ 振り返り・ ホタルと森林のつながりについて

落合地区の方の協力をいただき、第1回目の森林レンジャーあきる野主催の自然体験を行うことができました。

観察前には、ホタルの一生を表したボードを用いて生態や生息環境を学び、養沢川に生息するゲンジボタルのことを知ってもらいました。

4～5月の平均気温が低かったため、例年よりもホタルの出現が遅れましたが、30匹近いホタルを確認することができました。

観察後、ホタルが存在することは、ホタルの棲める川と山の環境が保たれているということ、地域の方が代々山を守り続けてきたからホタルが見られることなどを話し、ホタルの棲めるこの自然を守っていくためには、地域の方の「このまちの自然が好きなんだ」という思いが大切なことなどを参加者と共有しました。

自然環境教育としては、山がきちんと管理されていると、川の生き物が生息できる環境が保たれることを知ってもらい、山の管理の必要性や私たち人間の生活の見直しに目を向け、郷土愛や自然愛を持つことの大切さを学んでもらいました。

(2) 小宮久保子ども会



(行程表)

時間	場所	スケジュール
14:00	菅生若宮 子ども体験の 森の広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりの挨拶 ・ 森林レンジャー・自己紹介 ・ アイスブレイクゲーム ・ 危険生物紹介
14:20		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の名札作り
14:50	川	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川の探検と生き物探し
16:00	菅生若宮 子ども体験の 森の広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真竹としの竹で弓矢を作って遊ぶ
17:00		<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返り ・ 自然に親しむ遊びについて

「体験の森で何ができるのか」という企画をいくつか保護者に提案し、内容を保護者と一緒に作る形で進めました。企画・運営を行う上で大切なことは対象者の把握ですが、今回は、保護者に普段の子どもたちの様子を聞き、保護者の要望を織り交ぜたプログラムを作ることができたので、参加者の満足度も高かったと言えます。

保護者の要望は「おもいきり自然の中で遊ばせたい」ということだったので、調査や自然観察というよりも、自然遊びの中に学ぶ要素を取り入れたプログラムにしました。

プログラムの内容としては、ノコギリを使って木を薄く切り、自分の名札を作る、川の生き物を探しながら体験の森の自然を知る、竹で弓矢を作り遊ぶ、というものです。「竹で弓矢を作って遊ぶ」というのは、一見危険な遊びのようですが、自然の素材を使って遊び道具を作り遊ぶことで、自然に親しむ気持ちと遊びの中にもルールがあるということを学びました。

自然環境教育としては、低学年が多かったこともあり「自然の中で遊ぶのは楽しい」という気づきを与えられたことが大きな成果でした。

(3) 港区交流事業 (川の生き物探し担当)



(行程表) ◇ 午前・午後の2部構成 (各30名) で行う。

◇ 実施場所 (晴天時): 荷田子の河原

(雨天時): あきる野ふるさと工房

時間	スケジュール
20分	・レンジャー紹介と活動の班作り ・危険生物紹介 ・チーム分けと準備体操 (1チーム6人の5チーム)
10分	・川を渡る
10分	・実験クイズ 市内外混合チームで答えを考える
40分	・川に入って生き物探し
	終了後、歩いて工房へ移動

時間	スケジュール
10分	・レンジャー紹介と全体説明
10分	・チーム分け (1チーム6人の5チーム)
10分	・はっぱでアート説明 ・危険生物・植物説明
30分	・市内外混合チームで作品作り 「テーマ ~夏~」
15分	・発表と作品当てクイズ
	・かたづけ後、終了

環境課主催で行われ、森林レンジャーあきる野は、川の生き物探しを担当しました。あきる野市と港区の子どもが半数ずつの2班をつくり、「軍道紙づくり」と「川の生き物探し」を午前と午後に分けて行いました。

子どもたちは、ハコメガネや聴診器、網、水槽などを使った川遊びを体験し、川の流速クイズや捕まえたヘビを紹介した後、交流しながら秋川に棲む生き物探しを行うなど、秋川やあきる野の豊かな自然を学ぶ自然体験となりました。午前中に「川の生き物探し」を体験した子どもたちは晴天に恵まれましたが、午後は雷雨となり、途中でふるさと工房に避難しました。雷雨を経験し、子どもたちは、最初落胆しましたが、「自然の貴重な体験に出合った」と振り返りを行うと、子どもたちも良い思い出になったと納得していました。

自然環境教育としては、川の生き物探しをする中で、実際に自分たちも川の流れの強さや冷たさを感じることで、川の生き物を身近な存在として認識できる、豊かな自然の中での体感が、子どもたちの発見を促し、より効果的な自然環境教育を実施することができました。

(4) 栗原市交流事業（植樹担当）



（行程） ◇ 実施時間：午後2時から午後4時まで

教育委員会主催で行われ、森林レンジャーあきる野は植樹を担当しました。また、深沢地区の方に植樹指導や開催に協力していただきました。深澤家屋敷跡の見学、五日市憲法草案の説明、真光院の説明などを市民解説員が行い、あきる野市と栗原市の友好の歴史を学んだ後、栗原市の木「ヤマボウシ10本」の植樹を行いました。

植樹後、サインボードに生徒全員が署名し、後日、森林レンジャーあきる野が設置しました。ボードの木には、長岳尾根の危険木処理で伐採したモミを使用し、「栗原市・あきる野市友好の植樹」という文字は、深沢地区の方に書いていただきました。

(5) 昭島市交流事業（自然体験活動担当）

雨天のため中止となりましたが、金剛の滝を目指すクイズラリーのプログラムを企画しました。

年輪数えクイズや箱の中身を触って同じものを持ってくるクイズなど、森を歩き滝に到着するまでの散策路で、クイズに答えて進むという設定のプログラムでした。

（予定していたプログラムの行程表）

時間	場所	スケジュール
10:30	下宿会館	・始まりの挨拶 ・森林レンジャーあきる野自己紹介の後出発
11:30	森から 金剛の滝	先発班、後発班に分かれて自然に関わるクイズを行って滝を目指す
12:30		原っぱに集合後昼食
13:20	滝から	原っぱから森を歩いて移動
14:20	下宿会館	振り返り後、終了

(6) 産業祭「どんぐりで森づくり」



(行程表) ◇2日間で計3回実施し、各回1時間30分

時間	場所	スケジュール
15分	ブース	出展ブースに集合後、林へ移動する
5分	秋留台公園 内の林	・森林レンジャーあきる野自己紹介 ・どんぐり、どんぐりビンゴ、フィールドの説明
15分		どんぐりビンゴゲーム
10分		答え合わせと振り返り
15分		箱時き後、振り返り

身近な存在のどんぐりを用いて、「自然を今までと違った視点で発見し、自然をより好きになり、恵みの森づくりに参加してもらおう」目的で実施しました。

内容は、子どもたちにどんぐりビンゴゲーム用のカードを配り、公園内の林に落ちている5種類のどんぐりと穴あきどんぐり、根が出ているどんぐり、カードに書かれていないどんぐりの計8種類を集めてきてもらいました。答え合わせの後、どんぐりと森の生き物たちのつながりやどんぐりと生き物が行う森づくりの仕組みを学びました。

その後、どんぐりにはタンニンが多く含まれているものもあるので、食べられるどんぐりのマテバシイ、スダジイを炒って試食しました。開始時にはどんぐりを食べたくないと言っていた子どもたちも、おいしいと言って食べていました。どんぐりを食べることでプログラムが記憶に残り、どんぐりをより身近な存在に感じてくれたのではないかと推測します。最後に、将来恵みの森に植えるためのどんぐりの種をみんなで植えました。

自然環境教育としては、身近な自然をより知ることによって自然に潜む不思議や魅力に気づき、森と生き物と人とのつながりを学んでもらいました。

(7) 次世代につなぐ森づくり見学会



(行程表)

時間	場所	スケジュール
9:00	あきる野市役所	集合
9:30	五日市出張所	集合
10:00	養沢	「東京・森の学校」の案内による山林見学
14:00	五日市駅北側	多摩産材モデルハウス見学
15:00	草花	木工所見学
15:40	あきる野市役所	解散
16:00	五日市出張所	解散

先人たちが子孫を思い、木を植え、守ってきた森を多面的機能の高い状態に維持し、次世代に継承したいという思いを育み、その思いを市民に広げていく目的で実施しました。

養沢地区の池谷氏の山林では、参加者に森とともに生きていた昔の人の生活を知るため、森の現状を見学しました。そして、多摩産材のモデルハウスや秋川産の間伐材を意識的に利用している市内の木工所を見学し、地元産の木材が利用されると木材循環が行われ、そのお金がよりよい森をつくるために還元されるということを知り、森が健全に保たれる仕組みを理解してもらいました。

参加者からは、「山林を所有しているが、どう手入れをしたらいいのかわからなくて参加した」、「いつも利用しているあきる野の森に何かできないかと思い参加した」、「あきる野に住んでいるけど森がどうなっているのか知りたくて参加した」、「あきる野の郷土の恵みの森づくりに参加できることはないか」などの意見がありました。

(8) 冬を見つけよう



(行程表)

時間	場所	スケジュール
9:00	菅生交流会館	集合後森へ移動
9:50	体験の森の広場	動機付けの活動（冬の見つけ方クイズ）
10:10	森	カメラを持って冬を見つけに行く
11:10	体験の森の広場	里山の作業体験（落ち葉かき）
12:00		森で昼食
13:00	交流会館	振り返りと森林レンジャーの目線で見た冬を画像で紹介
14:30		解散

菅生若宮子ども体験の森事業実行委員会主催で行い、自分の目で見つけた冬を写真に撮る自然体験と里山作業体験の落ち葉かきを行いました。子どもがそれぞれカメラを持って菅生若宮子ども体験の森を歩き「自分だけの冬」と「みんなで見つけた冬」を撮りました。その後、落ち葉かきを行い、人間も冬の自然を活用して生活していることを体で感じました。

午後は、子どもが撮った画像を見ながら森林レンジャーあきる野が補足・解説を行い、その後、事前に準備していた「あきる野で見つけた紹介したい冬」を紹介しました。「冬は春を待っている季節だけど、自然界や生物、そして人間にとっても大切な時間」ということを一日の体験から学び、終了しました。

後日、子どもたちが撮った画像の中から森林レンジャーあきる野が1枚ずつ選び、それぞれの写真に一言添えて、市役所の市民コーナーで展示しました。

自然環境教育としては、子どもたちそれぞれの自然を見る目を養いながら、冬という一見何も無いように見える季節を再発見してもらいました。そして、里山作業体験を通して、自然と生き物のつながりだけではなく、人間も冬の自然を活用して生活していることを学びました。

(9) 春を見つけよう

菅生若宮子ども体験の森事業実行委員会主催で、カメラで春を撮る自然体験と植樹を行う予定でしたが、震災の影響により中止としました。冬を越した春を見つけ、足もとから来る春が森の動植物にとって大切な意味があることを学ぶ内容でした。

(予定していたプログラムの行程表)

時間	場所	スケジュール
9:00	菅生若宮	植樹
11:00	子ども体験	カメラを持って春を見つけに森を探検
12:30	の森	森で昼食
13:00		森で遊んだ後、振り返り
14:00		解散

3 まとめ

あきる野市には、自然体験活動や自然環境教育に適したフィールドが多くあり、今後も様々な形で郷土の恵みの森づくりにつながる自然体験事業を行うことができます。森・川・里などの自然と動植物、そして私たち人間の全てがつながりあっていて、あきる野の自然を守ることが私たちの生活も守るということを実体験から学ぶようなプログラムを実施していきます。

初年度は、単発のイベントや交流事業での自然体験活動を担当してきましたが、次年度は、環境の森推進室主催の継続した自然体験や自然環境教育を実施していきます。

主な取組としては、森の子レンジャーを立ち上げます。子どもが自ら体験・発見するとともに、学ぶ場を重視し、子ども本来の個性や能力を引き出す自然環境教育(行動する主体的個人を育てる教育)を行います。そして、あきる野の自然と文化を守り引き継いでいく「自然愛や郷土愛を持った人材」を育てるために、あきる野の自然を知り、深く理解するプログラムを実施します。

また、単発の事業としては自然に親しみ自然を好きになるきっかけ、「自然環境教育の入口」としての自然体験を行います。

自然環境教育の内容としては、森林レンジャーあきる野だからこその森林を基点とした「自然を保全する活動」に関連したプログラムも実施していきたいと考えています。